

## 平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立安西高等学校	校長氏名	澄川 利之	生徒指導主事氏名	北野 和則
-----	------------	------	-------	----------	-------

### 取組事例名 『第 40 回全国高等学校総合文化祭「2016 ひろしま総文」平成 27 年度国際交流事業』への参加

#### 取組のねらい『キーワード グローバル事業（国際交流事業）の活用』

第 40 回全国高等学校総合文化祭広島大会のプレ行事の一環として、大韓民国よりソウル国際高等学校の生徒の訪問を受け入れ（7 月 23 日）、日韓の相互交流を図る。

#### 取組の具体的内容『キーワード 生徒会執行部と実行委員会を中心とした主体的活動』

- ソウル国際高等学校受け入れに際して、生徒会執行部が有志を募り、生徒実行委員会を立ち上げた。
- 実行委員会については、生徒会執行部の生徒、姉妹校ルーズベルト高校への派遣生徒、韓国語を独学している生徒等の計 9 名の生徒で構成した。実行委員会の指導、助言のために特別活動部 1 名、教務部 1 名、生徒指導部 1 名の計 3 名の教職員を配置した。
- 実行委員会（2 学年生徒 4 名、3 学年生徒 5 名）を中心に歓迎のための企画を考え、準備を進めた。

##### 【本校の催しの内容】

- ・校歌合唱（太鼓付）
- ・パワーポイント、英語による本校の紹介
- ・書道部による大書揮毫（吹奏楽部の演奏付）



- ・記念品交換
- ・食文化履修生による調理接待、実行委員とソウル国際高等学校生徒との意見交換
- ・歓迎の様子



#### 取組の課題・創意工夫『キーワード 交流を通じた校内諸活動の活性化』

##### ○創意工夫

- ・交流を通して、平成 27 年度から始めた校歌合唱、ハワイ姉妹校への派遣生徒の事後研修、部活動などの活性化を図った。
- ・校内の委員会を積極的に活用した ～ 会場設営及び片づけは各クラスの学級委員、特別活動委員が担当した。



##### ○取組の課題

##### ①事前準備等にかかる活動の時間の確保

実行委員会を開催しても、該当生徒の中には進路関係の用事や補習と重なって、全員が集まることが難しいこともあった。事前準備の期間が限られていたこともあるが、生徒会執行部、各部活動所属部員、実行委員生徒などの連携を日頃から強化しておくなどの取組も必要であると考えます。

## ②交流事業に向けた校内全体の雰囲気づくり

おもてなしの意識について、全校生徒への連絡（宣伝）をもう少し早めにして、全校生徒が関わられるおもてなし（折鶴を準備する・手紙や色紙・歌？）を用意したり、韓国語を学んだりして気持ちを高める取組をすると更によかった。また、時間が確保できれば、エンターテイメント性のある発表（歌やダンス？）等も双方の緊張が早くほぐれるのではないかと考える。

## ③ひやま館（校内研修施設）での意見公開会で工夫

韓国の生徒は本校の実行委員や食文化の生徒に個々にお土産を用意されていたので、本校の生徒にも個々にお土産（本校のゆるキャラ、「コノちゃん」をモチーフにしたグッズなど）を用意するなどの工夫も必要であった。韓国語の日常会話を書いた紙を1テーブルに1枚ずつ事前に準備したことは役に立った。

## 取組の成果（効果）『キーワード 自主的な態度の育成』

### ①事前の準備を通して、自ら進んで物事を行おうとする態度が育ったこと

全校生徒で見送りをしようという案を実現させるために、実行委員の生徒が見送り計画案を練り、校長に提案した。また、当日のレセプション会場までのバスでの移動時間を楽しんでもらうためのアイデアを出し合うなかで、高校生の興味・関心から出るアイデアは教員では思いつかないもので、生徒のおもてなしの心が感じられるものであった。

### ②積極的に他者と交流する態度が育ったこと

意見交換会の場面では、普段は英語に苦手意識を感じている生徒も、英語と事前に準備した韓国語を交えて積極的にコミュニケーションを図ろうとしていた。また、実行委員のメンバーだけでなく、同席した食文化選択者も一緒になって、みんなで交流を深めようとする態度が見受けられた。

### ③世界を見る視野が広がったこと

ひやま館での意見交換会や翌日（7月24日）の国際交流コンサート会場においても、本校の生徒たちが韓国訪問団の生徒たちと積極的に会話しようとする態度が見られた。意見交換会は限られた生徒しか出席できなかったため、他の生徒の中にも「ぜひ自分も出席したい」という発言もあったと事後に聞いた。学校全体での交流会という大きな行事を通じ、生徒の異文化への関心が高まったと思われる。



## 今後の展開『キーワード 県の事業の積極的活用』

グローバル化をすすめるための取組として県の事業を活用した。管理職、学校がこのような事業を活用することによって本校生徒が普段では考えられない貴重な経験ができた。他国の高校生と関わり異文化に関心をもったり、感じたりする機会をこの年代で多く持つことは有効であると感じた。また、国は違えど、同年代の感覚を身近に感じ、生徒はたくましく成長した。

## 他校へのアドバイス『キーワード 校内での取組を校外で発信する機会の促進』

今回の事業への参加を通して、本校での取組を校外で披露する機会をつくることの重要性を感じた。地域や他校との交流を含め、今回のような事業を積極的に活用して生徒の自主性とコミュニケーション能力の育成を促進する取組があるとよいのではないかと考える。